



安全管理委員会からの耳より情報 VOL.20



【新型コロナウイルス】ワクチンの副反応 どんな症状？

日本国内では医療従事者を対象に、米・ファイザー社などが開発したワクチンの先行や優先接種が行われています。ファイザー社製のワクチンは1回目の接種から原則3週間後に2回目の接種を行う必要があります。ワクチンを接種すると、発熱や接種部分の痛みや腫れたといった副反応が起きることがあります。また、1回目よりも2回目の方が、発熱や倦怠感、頭痛の症状が出現した人の割合が高く表れます。こうした副反応が報告されているため、どのような症状が出るのか事前に知っておくことが大切です。

発熱 接種部の痛み 倦怠感

頭痛 筋肉痛や関節痛 寒気 など



NHK、HP より抜粋

●米・ファイザー社製・新型コロナワクチン (CDC まとめ)

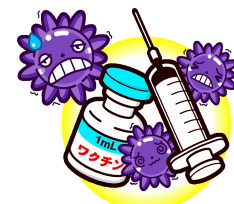
単位は%

	発熱	接種部位		倦怠感	頭痛	嘔気	筋肉痛	関節痛	寒気
		痛み	腫れ						
1回目	7.4	67.7	6.8	67.7	25.6	7.0	17.2	7.1	7.0
2回目	25.2	74.8	26.7	74.8	41.9	13.9	41.6	13.9	26.7

※稀にアナフィラキシーの発生が報告されています。

(厚生労働省の発表では12000回に1件の割合)

【対応】発症時は急に座ったり立ち上がったりの動作を禁止。原則、仰臥位で下肢挙上させるが、嘔吐や呼吸促(窮)拍の場合には、本人が楽な姿勢にする。治療の第一選択はアドレナリンの筋肉注射で、「アナフィラキシーが疑われた」時点で素早く大腿部中央の前外側等にアドレナリン(0.01mg/kg、最大0.5mg)あるいはエピペン®注射液0.3mgの筋肉注射を実施する。同時に酸素吸入と生理食塩水の急速点滴投与、呼吸困難が強い場合は短時間作用性B2刺激薬の吸入も実施する。



[出典・参考資料]

厚生労働省 新型コロナワクチン Q&A

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>

